

はじめに

新潟県は、緑豊かな山並みに囲まれ、四季の変化に富み、雪に育まれた水と緑にあふれた環境に包まれています。この豊かな環境は、多様な生命に満ちあふれ、生活に安らぎと潤いをもたらし、本県の発展の基盤となっています。

今年 1 月、本県の更なる発展を期するために、県が取り組む政策全般と目標を示す新たな総合計画として「にいがた未来創造プラン」が策定されました。

当研究所は、同プランの将来像の一つである「安全で暮らしやすい新潟」の実現に向け、本県の保健衛生・環境行政における科学的・技術的中核機関として、行政部門と密接な連携のもとに各種の試験検査、研修指導等を行うとともに、解決が急がれる課題、技術的水準の維持向上を図る必要がある課題に対して、調査研究に取り組んでいます。

平成 29 年度は、調査研究として「LC-MS/MS による下痢性貝毒分析のための基礎的検討」や「新潟県における環境中の水銀に係る動態の解明」などの課題に取り組むほか、PM2.5 や酸性雨などの広域的な調査、細菌・ウイルスの遺伝子解析などの高度な検査、農薬や化学物質の検査手法の開発などに関して、国及び全国自治体の研究機関、大学等と連携した共同研究にも取り組みました。また、研究所の業務をより円滑に進めるため、水銀分析計、多項目水質計など、必要な機器の整備を行いました。

近年、科学技術や通信技術の発展、グローバル化の進展などに伴い、私たちを取り巻く環境の変化はスピードを増しており、健康・環境危機事案へ迅速に対応するためには、技術の研鑽と経験の蓄積、スキルの伝達・伝承が重要と考えています。

これからも、県民が健康で、安全、安心に暮らせる生活環境づくりを目指し、全職員が努力してまいりますので、ご支援をよろしくお願いします。

ここに、平成 29 年度の当研究所における試験検査及び調査研究の成果を「新潟県保健環境科学研究所年報第 33 巻」としてとりまとめましたので、皆様からご一読いただき、忌憚のない意見をいただければ幸いです。

平成 30 年 10 月

新潟県保健環境科学研究所長 大沼 文男